

一西だより

豊川市立一宮西部小学校通信
令和6年 5月20日 第8号
発行；校長 村上謙一

【体操服の変更について】

P T A委員会でお認めいただき、令和7年度から、新しい体操服の販売にむけて準備中です。子ども・保護者のアンケート結果によって、詳細を決めていきます。6月には、新しいモデルと販売開始時期について詳しいご案内ができる見込みです。今しばらくお待ちください。なお、現在のモデルの体操服は今後も継続してご使用いただけます。

【一宮西部地区青少年健全育成協議会】

「地域の宝である子どもは、地域の大人が育てる。まずは大人が変わっていく。どこまでできるかわからないが、学校の力になりたい。」そんなお話を一宮西部地区青少年健全育成協議会会長 鈴木様からいただきました。コロナ禍の下で活動が停止していた組織が再始動することです。活動計画には本校の「サポーター」制度も記されています。地域に開かれた学校づくりに努めている本校としては、ただただありがたいという思いです。どうぞよろしくお願いたします。

【運動会の練習が始まっています】



低・中・高それぞれのチームで、運動会の練習が始まりました。2年生、4年生、6年生はそれぞれのチームのリーダーです。ちょっと背伸びをしてがんばることを覚えるチャンスです。

大人のみみんなもね、ちょっと無理をしてがんばって生活しているのですよ。

【サポーターについて】

目標

- ① 困っている子に寄り添い、「何か私にできることある？」と声をかけ、子どもの心に大人への安心感と信頼感を育てる。
- ② 地域の未来をになう宝である地域の子どもに、学校を核として地域の大人と保護者が教育活動の当事者としてかかわる。

この二点を目標に、令和5年度に立ち上げた組織です。具体的な活動は以下の通りです。

活動内容

- ・細く長く活動していくために、活動日や時間、回数、活動内容などを決めない。
- ・月に1回程度は活動に参加していただきたいが、強制するものではない。
- ・隙間時間に、地域の物である学校に、地域の大人として、教職員と対等の立場で、地域の子どもの教育にかかわる。隙間時間なので1時間でもよい。
- ・業務ではないので、子どもへのかかわりについて責任は伴わない。教職員の目や手が届かない隙間を埋める意識で活動する。
- ・活動中の不測の事故に備え、市のボランティア保険に加入する。手続きは学校が行う。(他の市のボランティア活動で、既にボランティア保険に加入されている方は新たに加入する必要はない)

現在15名のご登録を得ています。木村泰子先生の講演会でも言及があったように、「みんなの学校」づくりの核となる取組です。より多くの皆様のご参加をお願いいたします。保護者の方も、地域の方も、一度校長室にお越しくください。ご連絡は不要です。活動について、校長または教頭が詳しくご説明いたします。



保護者みんながサポーター。当然校長室は手狭になり、校長室喫茶店は別室に移転。保護者と地域の大人が自走して学校の教育活動にかかわっている。子どもたちにとっては、学校には先生以外にも多くの大人がいるのが当然の風景となっている。こんな学校で子どもは安心感に包まれて生活している。こんな未来を夢見ています。